13ヵ月太陽の国
③

村下敏夫

午前6時半．　夜はまだ明けきらない．　トンビの鳴き声がする．　窓ぎわに咲き乱れているブーゲンビリアの花の中から　すずめの声がする．　乾季に向かって少し枯れかかった葉がきたなく感じられるバナナの木の向こうに　残月がかかっている．　窓をあけると　冷たい空気が重そうにドッと　部屋の中に流れこんでくる．あわてて　セーターを着こむ．

午前7時．　夜はすっかり明けて　人の動きがちらほらとみられる．　すずめの鳴き声が　ひときわさわがしくなる．　肩から胸にかけての部分だけが白くなっている——ちょうどエプロンをかけたような　からすやはとが　人の足音におどろいて　飛びたつ．　食堂の方から食器の音が聞えてきて　準備がととってきたことを知らせる．

8時すぎると　町は急にざわめいてくる．　ほとんどのオフイスは　9時から始まるから　8時半すぎると日本と同じように　自家用車　バス　タクシーが入り乱れる．　そのうえに　農村から商いにやってくるドンキーの群や市場があるときには牛や山羊が　ラッシュにまきこまれるから　時計を気にしながら警笛を鳴しつづける車もある．

交差点の信号は　万国共通なのか　赤　黄　緑である．ただ日本と違うのは　赤から緑にはすぐに変わらなくて一たん黄にもどる．　このときは　人も車も通らない．あわてん坊が　日本式に走り出すと　乗馬ズボンに長靴をはいたスマートなお巡りさんに　ピー　ピー　とやられる．　また交通巡査にかぎって　かわいい女のお巡さんも　町角に立っている．

店は　開店にそなえて　あわただしい．　店先に　ミシンを持ち出して準備に余念のない男もいる．　この国では　ミシン仕事は　女ではなさそうだ．

裁判所の庭は　シャマを着た正装の婦人　背広姿の男たちや車で　こんでいる．　誇り高きシバの女王の末えいだけに　万一トラブルがおこると　なかなか収拾できない．　口角あわをとばし　身ぶり　手ぶりよろしく自分の主張を通してゆずらない．　さきほどのミシン屋を例にとると　お客の希望通りに仕上がらなかったときに店の主人との間にトラブルがおこると　恐れながらと裁判所へ訴える．　ここではあまり時間はとられないようで　双方の言い分を聞いて大岡裁判となるらしい．

さて　エチオピア政府が　わが国に地下水調査とその指導を依頼した直接の動機は　第一回のさく井市場調査員の印象がよかったからであろう．　水井戸掘さくでアメリカの援助が打ち切られて以来　エチオピアは誇り高い国情が示すように　独自で仕事をしてきた．　日本からの技術者を希望した書類には　「水資源庁は　過去14年間エチオピアで水井戸を掘ってきたが　電気検層

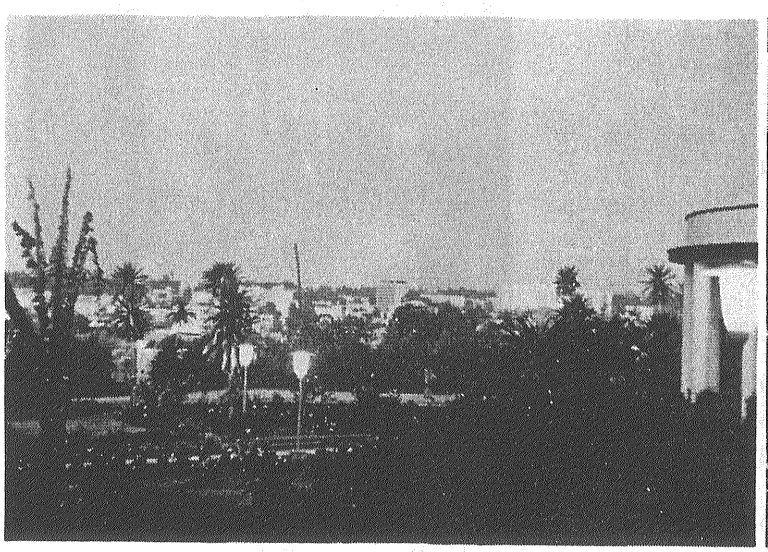

図21　首都の夜明け　6時30分　町はまだ静かに眠っている

図22　シャマで正装したエチオピア婦人　赤十字のバザーの日　日本コーナーで買い物をする母と娘

図23　農村から町へ買物にくる娘さんたち
コーモリ傘が印象的だった

図24　水資源庁出発前の電気探査グループ　荷台に乗っているのはワーカーたち

電気探査などの器械を使用した他の科学技術的組織の援助を受けていない」　という主旨のことが明記されていた．　すなわち　地下水調査に関する技術導入は最初であるということで　これがまた　われわれが率直に参加しようという気持ちになった原因の一つでもあった．

調査は　開発部との協同であって　その内容は

1）帯水層の深さの決定
2）水の量と質の決定
3）含水層の厚さの決定

を希望してきた．　調査範囲は　書面では首都アジスアババと約 20km の南方のアカキ市との間となっていたが実際には 100km も離れた南東のナザレスの町まで　また30～40km 離れた南西方向のサバタ　西方のホロタ　北方のスルルタ　東方のセンダファにも足を延ばした．

さておことわりしておかなければならないのは　地名の呼び方である．　すでに読者も気付いておられるように　首都は　「新しい花」という意味のアジスアババが今の呼び方で　アベバは旧名である．　サバタも　昔はセバタであった．　日本でもかってはそうであったように　初めに言葉があって　それから文字ができている．この国はその過渡期であるのか　地名も人によってまちまちである．　たとえば　標高 1,900m 台の酸素の多い別荘地として名高いナザレスは　ガラ族の町で　旧名はアダマまたはハダマで　政府発行の地図にちゃんと書いてある．　首都との中間にある美しいいくつかのカルデラ湖に恵まれた保養地デブレゼイトは　旧名をビショフトまたはアダともいっていた．　また地名の綴りも　地図と市役所の看板とでは違い　地図ごとでも統一されていない．

さて　エチオピア政府の要望にこたえるべく　われわれの調査体制は

1）電気探査と地下水調査
2）電気検層と揚水試験

を主とする２チームに分かれ　それぞれに開発部のチーフと助手がついた．

調査の足になる車は　シボレーとトヨタのジープであった．　紅海を隔てた対岸のアラビア半島は石油資源の豊庫であるのに　輸入に頼らねばならないエチオピアでは　ガソリン（ベンゼンと呼んでいる）を大量に消費するシボレーよりもトヨタの方がすばらしいと　手放しで賞める．　そして　チーフは　トヨタの車をあずかっていることに誇りを感じていた．

一日の行動は　朝の出迎えからはじまる．　役所のドアーは　９時に開かれるから　チーフが車でホテルにくるのは　９時５分か10分である．　前日に時刻をいっておけば　まず間違いなかった．　ただチーフの一人は回教徒であったので　断食に入った12月の後半になるとややもすれば遅刻した．　車で役所までいくと　助手たちが集まってくる．　助手といっても　日本流にいえば労務者である．　この国では　部長　課長　秘書といったおもだった者には部屋があり　机が与えられているがその他の者は　部屋の外にいる．　政府職員で　さく井のチーフであっても　机はない．　したがって　助手たちは　庭で車の到着を待っている．　そして　チーフか

ら名指しされた連中が一日の作業にありつくのである．

彼らは水資源庁に雇われており　仕事に応じて　能力によって200kmも離れたさく井現場へ数カ月も出かけたり　一日のかぎられた仕事を手伝う．　彼らは肉体労働者であるが　学歴は高校卒程度も多い．　エチオピアでの高校卒は　資力の面でもすぐれているものが多い．そして　20才前後の若者だから元気がよい．　こういう助手たちに囲まれたわれわれは　ある面ではたいへんに恵まれたのかも知れない．　人員がそろうと　器材を車に積みこむ．　最後にベンゼンを満たんにし　タイヤを点検する．　前日に車の整備をしておけばよいのにと思うけれど　出発前にならないと絶対にやらない．　だから　作業への出発は　10時すぎになってしまう．

現場に着いて　測定地点と測線の方向を示すと　若者たちは受けもち通りに準備する．　測定器をセットする者　間縄をはる者　電線をひっぱる者　それぞれに分担が決まっている．　測定に入ると　電極棒を移動させる者　ノートする者　すべて規律正しく行動する．　その序列　分担がどのようにして決まるのか　ついにわからなかったが　同一人が同一作業をしてくれることは　むしろありがたかった．　一度教わったことは　むだなく覚えているし　準備中に手伝ったりすると嫌うので　先刻測定ずみの資料を整理することができて　好都合でもあった．　数字は　最初の頃は英語だったが　途中から日本語を教えて　サン　ゴ　ニ（352）というようにノートさせた．　頭のよい若者は　一日で覚えてしまった．

もともと　英会話に弱い筆者にとっては　この試みは成功だったように思う．

日本語のナナ（7）は　アムハラ語では男性に対して「来い　来い」という意味である．　アムハラ語の「コイ」は　日本語の「待て」である．　こうして　いくつかのアムハラ語を　作業を通じて記憶し　それを測定器を囲んで集まってきている現地の大人や子供に使ったり逆に数字をアムハラ語で言ったりしてとかく言葉の不自由からくる不便をとり除き　楽しい毎日を過すことができたように思っている．

図25　電気探査の作業開始

図26　電気探査の現場　遠方に見えるのはクレーター

蔵田さんは　ときどきアミダクジをしては　若者たちに日用品の類を与えてやり　日本大使館にある日本紹介の絵葉書やパンフレットを訪問先で配った．　こういうささやかなことが日本人に対する親しみを育てることに役立ち　ヒフの黒さこそ違うが欧米人よりもより友好的である　という印象を若者たちに与えたのは　確かだった．

若者たちの多くは　独身であるがなかには妻帯者や子供があるのもいる．結婚は種族によって違い幼いときに親が決めたことにしたがっているのもある．　ある州でのプロポーズは　彼氏が彼女に　レモンを贈る．　もし　そのレモンを受けとってくれたら　ガールフレンドになることを承知したという意味になる．　そして　彼女がたくさんのレモンを　彼氏にお返ししたら形式的に結婚の承諾をしたことになる．やがて　そのことは村中の評判となり二人の結婚が認められる．　そしてどこでも　美しいことは結婚の第一条件らしい．

また　調査中　もの珍しそうに集ま

ってくる　人なつこい現地人は　カメラを向けるとサッと散ってしまうが　水探しの仕事だと聞くと　親切にもテフから造った香のよい自家製ビールを　わざわざ届けてくれる．　この国では　ビールの自家醸造が認められているようで　庭先や玄関に棒を立て　それに白いホウロウびきのコップや空カンをのせてあるのは　ここはビールを売る家だという目印である．

キリスト教のセレモニーの日は　それに参列する者をとわず　人々に恵みを施すのが習わしのようである．自動車でとび回っていると　小高い丘の上にあるワラブキの家から　子供たちが走ってきて　ご馳走を食べにこいと　大きな声で叫び　追いかけてくる．

しかし　仕事の分担が明確であることは　一方では非常に不便なことである．　能率が悪くてスローだということは　一面では守備範囲が大切にされていることのあらわれでもあろう．　日本だと　課長　部長が不在でも補佐や次長が仕事を代行する．　しかも　それは当然の職務である．　ところが　彼らは　自分の職務以外のことになると "I don't know" の一言で片づけてしまう．　いくらあせっても怒っても　けっしてうまくはいかない．

もう一つ困ったことは　食事の時間である．昼休みは　13時から15時までである．　この間レストランを除いては　ほとんどすべての事務所　商店が休む．　役所は　秘書がドアーの鍵をかけて帰る．　しかも　定刻にである．　用事ができても15時まで待たねばならない．　13時すぎると　町は車のラッシュである．　15時前の町も　同じく往来がはげしい．　彼らはわが家で家族そろって食事をとるのが習慣である．　レストランで食事をとるのは恥の部類に入るらしい．　だから45万人の人口がある首都に　エチオピアの食事を出すレストランは　少ししかない．　あとは　中華料理屋　イタリア料理屋もしくはホテルの食堂である．　そしてランチタイムで賑っているレストランのお客はほとんど外国人である．

そういうお国柄であるから　現場へ出かけても　昼食時には帰りたがる．　50km ぐらい離れたところからでも　そうである．　13時に午前中の作業が終わり　それから帰るとなると家へ着くのが早くて14時．　15時ちょうどにふたたび出発しても　現場到着は16時すぎ．　18時までに役所へ着かないと　ドアーは閉まる．これでは　午後の仕事は　まったく不可能である．

そこで　メサ（昼食）を各自持参するように　前日若者たちに指示しておいた．　また　そうすることは　部長の希望でもあった．　ところが　持参したのは一人か二人であった．　チーフも持参していない．　最初はずいぶんいいかげんな男たちだと思ったり　その理由をはっきりさせない彼らに　憤りをおぼえたりした．　やがて　分かったことは　メサを持たない連中は　回教徒で　しかも12月中は断食の期間であった．　断食中は水も飲まない．　コプト派の連中は　平気で食事をとる．日本人には　そのような戒律はないし　うどんやそばの類なら　いまでもどんな田舎でも　ありつける．

メサを持参できない理由がはっきりしてからは　われわれの方も食事ぬきで　一日分の作業を一気にすますことにした．　太陽がもっとも高く　気温がもっとも高い日中に　飲まず食わずのおつき合いをさせられて　へとへとになって町へ着くと　レストランは15時から18時ま

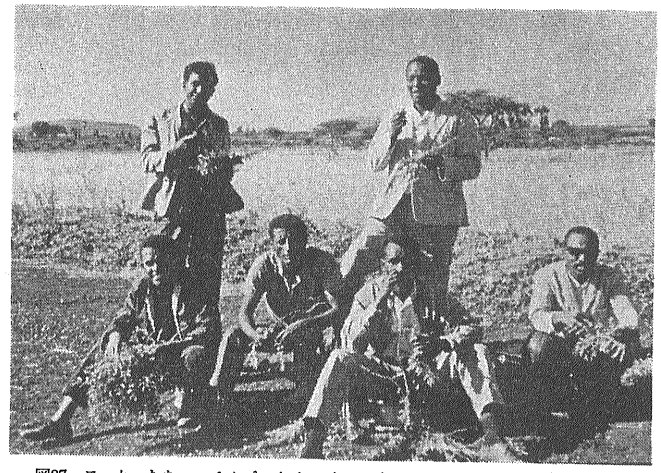

図27　ワーカーたち　エチオピア人は　グリンピースに似た豆を好んで　生で食べる

図28　現場に集まってくる子供たちと水資源庁の職員　子供は胸に十字架をかけている

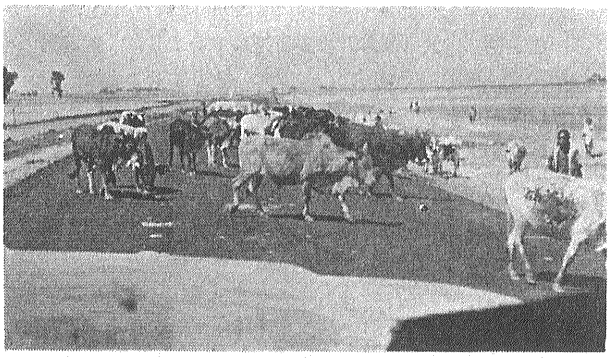

図29　調査現場へ急いでいると　どこからともなく山羊や牛の一群が　ゆうゆうとハイウェイを横切る　車はその間ストップする．　大切な財産を傷つけてはならないからである

でがランチタイムで閉店．　万事休す．

午後6時は　フラッグ　ダウン　タイムである．　キリストの教えである希望(緑)　慈善(黄)　誠実(赤)を象徴する国旗が降下する時刻である．　宮廷の方から　おごそかなラッパの音が青空のアジスアババの町に広がると　エチオピア人は立ち止まって　皇帝に忠誠を誓う黙とうを捧げる．　国旗掲揚の時刻は　朝6時だといわれているが　あいにくとその時の記憶がない．　おそらく肌寒い部屋の中で　まだ浅い眠りについているときなのであろう．

皇帝への忠誠は　それだけではない．　役所　ホテル　レストラン　バーなど　人が集まるところでは　目立つ位置に皇帝陛下または皇后陛下との写真が掲げてある．ハイレセラシエ1世は　第2次世界大戦の救国の君主である．　ややもすれば　アムハラ族に反感を抱き　ときどき不穏な空気をかもし出す旧イタリア領エリトリアの住人たちも　皇帝には衷心から敬意を表している．

北緯9度　標高2,400mのアジスアババの町は　空気が稀薄で　重労働がむずかしい．　階段を上がるのにも息切れがする．　馴れないと　頭が痛くなったり　鼻血がでる．　2,000m　ぐらいまで下りると　そんな心配はない．　だから　彼らは急ぎ足で歩かない．　仕事がスローだというのも　空気が薄いことが一因となっているのかもしれない．

そういう高地で　親衛隊は2,000mから2,400mまでの起伏に富んだハイウエーを走っている．　アベベやマモー選手が　すばらしい記録をたてたのも　ふしぎではない．　サッカーは　日本の野球のように　大衆化している．　ホテルのすぐそばにある競技場では　東アフリカの対抗試合がよく行なわれていた．　そして　エチオピアが出場の夜は　スコアの成り行きに　アジスアババの町が興奮のるつぼと化し　ためいきと喚声が町中にどよめいた．　空気が薄いと　記憶力が衰え　睡眠が浅く3年もいればバカになるといって笑っておられた外交官もあった．　わずか2カ月という短い滞在中でも　高山病にかかったままの状態で　体がけだるい．　とくに食事後はやたらと眠くなる．　ひと寝入りすれば　疲労がとれて気分は爽快になった．　ウィスキーは　英国産のうまくて安いものが手に入るので　うっかり飲みすぎる——日本での量よりはるかに少なくても　後で息苦しくなった．　真夏の金魚鉢の金魚のように　なり振りかまわず口を開いて　深呼吸を続けなければならなかった．

したがって　首都から2,000m程度下がった高原での作業は　すこぶる楽しかった．　息切れがしないことは75kg の体には　すばらしく快適だった．

日中の気温が25℃あるいはそれ以上に上がっても　湿気が20%前後になると　木蔭では寒さを感じる．　乾燥しているので　水虫にはよかろうと思っていたら　作業中に足の裏が湿りがちとなり　ときどき靴下をぬいで乾すのだが　だんだん悪くなって帰国してからの治療に時間を費した．

日本から1万2,000kmも離れたエチオピア　しかもヨーロッパ経済圏にあるアフリカでの　わずか2カ月にすぎない調査期間で　百点満点の解答を出すことは困難であるが　日本からの技術輸出には　一考を要する点があるように考えられた．

その一つは　たとえば頑丈な機械は長持ちするので喜ばれるであろうということ．　日本では精密な器機ほどすぐれていると考え　またそれを取り扱う技術者は優越感を抱いているが　すぐに狂うようなものは歓迎されない．　調査中に　日本製品——しかも精密器械についての評判が悪いという話を　ときどき耳にした．　温度も湿気もまったく異なる国であるから　日本と同じ状態で使用できると考えていたら　まず間違いであろう．　そして　万一部品が必要となったとき　ヨーロッパに本店がある会社は　すぐに取り寄せられるが　日本ならば飛行機便で一週間近くかかる．　まして船便になると　フランス領のジブチィまで早くて一カ月　そこからフランス系の貨車でアジスアババまで着くのに2～3カ月はかかる．　遅いときには　日本の港を出て着くまで6カ月みておかなければならない．　そこで　ヨーロッパの国々と競争するには　溶接ぐらいで簡単に修理できるような器械が必要になってくる．　こんどの電気探査器は横河製のL—10型大地比抵抗測定器であった．　日本のように複雑な地形や地質のところではなく　また土壌水分が豊富な火山質土であったから　この器械で十分に用が足りた．　そのほかに　導電率測定器は2社の製品を

持参したが　ガラス製のものは見栄えがよいわりには案外耐久力がなかった．　和製のボールペンは　ほとんど使えなかった．　フランス製のビックがたくさん出回っているのは　この辺の事情によるものであろう．

また一つは　知識とその応用という点であった．　政府の幹部は　外国留学の経験をもっている．　頭がよくて　知識の吸収も早い．　地下水に関する勉強はよくやっていた．　電気探査や電気検層の知識も豊富であった．それらの学問や知識は　自分の職務にはすばらしく発揮されるが　その応用の面では十分ではなく　かつ他人のこととなると　一向にお構いなしなのである．　この辺は　国民性ではないかと考えるが　国家のためには　まことに惜しい気がしてならない．　日本は　明治百年を祝った．　われわれの先輩は　外国の文化を学び　これを消化して　やがて一つの日本化した文化を開拓した．人は　これを猿マネともいった．　しかし　後進国が一歩でも先進国に近づき　追い越すには　それだけの努力をしなければならない．　地質調査所が海外技術協力の一環としてお世話しているものに「地下水研修コース」がある．　研修生はその内容にかならずしも満足していない．　日本人ならば　どんな知識でも吸収してやろうと意欲にもえている．　ところが　彼らは　あんがいと好き嫌いをはっきりさせるし　盛りだくさんな教材には当惑している．　その辺の事情は　お国がらによるもので致し方ないが　専門知識の植えつけよりも　それを現場でどのように応用するかという点に力を注いでやる方が　彼らの期待にこたえることになるだろうと考える．

もう一つは　彼らは誇り高い民族であるということ．シバの女王の子孫であるエチオピア人は　プライドが高い．　またこうと思ったことは　たとえ間違っていてもなかなか変えない．　ある在留邦人が　わが国の代議士には恰好の勉強材料になるだろう　と皮肉っていた．とにかく　指導するときには　相手の間違いを指摘することはさけ　プライドを傷つけないような心掛けが大切である．　そして　われわれが身をもってかけずり回り誠意と熱意とを示してやれば　やがて彼らも納得するようになる．

帰国間近いある日　日本大使館などから借りた日本紹介の映画が　水資源庁で披ろうされた．　なかなかの好評で　アンコールで二日つづいた．

町でみられるエチオピアでの日本紹介は　航空会社のウインドーにある写真ぐらいなものである．　祇園舞子のあれた顔　仙台の七夕祭り　秋祭りののぼりとこけし人形——こんなもので　日本が理解されたのではたまらない．　日本紹介の映画は　日本の工業技術　日本での観光一週間　コンサルタントエンジニアの活躍など　今日の日本の一面を取材したものであった．

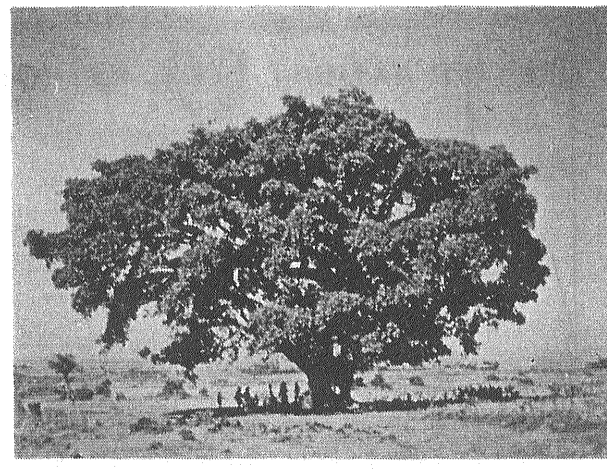

図30　直径30m　あるいはそれ以上もある大樹　昼下がり　通行人はその下で自家製のビールをくみかわしながら一休みする

映画鑑賞が終わった後　あるチーフが言った——「日本はすばらしい　日本人の働きぶりには感心した　しかし生活をエンジョイする姿はみられなかった」——と．

私は　強いショックを受けた．　そんなことはないと何度も否定した．　しかし　最後には　真の幸福とは何であるかを　彼に教えられたような気がした．　調査中の辛かったこと　苦しかったことがすぎ去ってしまった今では　楽しいものしか残っていないが　その中でも彼の言葉は　いまだに消え去ろうともしない．

ユーカリの町と青い空．　ドンキーと白いシャマを着たエチオピア婦人が行き交う大自然に囲まれたアジスアババの町に　日本から嫁いだ幸子エフレムも　幸福な生活をさがし求めていることであろう．

広大な土地での地下水調査　そして技術指導は　2カ月という短期間であったが　この間大勢の在留邦人の方々から　あたたかい援助をいただいた．　日本国の番大使は　着任早々であったが　ご専門の研究で水の問題にとくに興味をよせられ　水に関する援助の面でも努力したいといっておられた．　在留邦人数十名の面倒をよくみておられたサビアンメタル会社(日本鋼管の合弁会社)の吉田社長　一昨年6月に開設された JETRO で資料の収集に奔走されている岡崎所長　また東洋レーヨンの田中社長　エチオピア帝国中央研究所々長の大瀬博士　ハイレセラシエⅠ世大学の鈴木博士とその地で誕生した「はな子」ちゃんを囲むご一家など　これらの人々のご好意は　いつまでも忘れがたく　また一層彼の地をなつかしいものにしてくれる．(完)

(筆者は　応用地質部)